

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 奈良教育大学附属小学校

種別 小学校

住所 〒636-0104

奈良県奈良市高畑町

E-mail : fusho@nara-edu.ac.jp

Website : <http://www.nara-edu.ac.jp/ES/index.htm>

児童生徒数：男子 285 名 女子 276 名 合計 561 名

児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

平和・人権

4. 活動内容

（1）1年間の主な活動内容について記載願います。

6年生のヒロシマ修学旅行（2014年5月22日～23日）で学んだことを全校のなかまに広げる取り組みーヒロシマの語り部として下級生に伝える

1、旅行のめあてを決める

原爆のおそろしさと被害を受けた人々の思いを学び、全校に知ってもらい、平和とは何かを考えよう。（児童委員会が提起し6年生集会で確認する）

2、事前学習

- ①3つの表記の違い（広島・軍都、広島・西日本有数の工業都市、ヒロシマ・人類史上初の核兵器の被害を受けた都市。平和学習の原点）
- ②原子爆弾のしくみと3つの被害の概要を知る（爆風・熱線・放射線）
- ③国語教材『平和のとりでを築く』（作・大牟田稔）の学習
- ④音楽教材『白い鳩』の合唱

3、修学旅行（5月22日～23日）での学び

- ・被服支廠見学とここで被爆された中西巖さんの話を聞く。
- ・爆風で曲がった鉄の窓をスケッチする。
- ・広島平和記念資料館見学
- ・西光寺の墓誌調べ・爆心地確認
- ・平和公園の碑めぐり
- ・平和公園外の見学・・・空鞆神社（熱線を受けて表面がくずれた狛犬がある）、被爆柳（爆心地に最も近い）、せこへい像（世界のこどもの平和像）
- ・原爆ドームのスケッチ
- ・広島城敷地の元中国軍管区司令部の地下通信室で、被爆直後の広島の様子を電信で初めて伝えた岡ヨシエさんの話を聞く。
- ・原爆ドーム前でまとめの集会（平和の誓いのことば・『白い鳩』の合唱・折り鶴をささげる）

4、事後の取り組みとして全校のなかまに6年生が広島で学んだことを伝える

① 6月3日（火）の全校集会で

実行委員を中心に修学旅行で特に心に残ったことを中心に映像を使いながら報告。子どもたちが選んだのは、被服支廠の鉄の扉と中西さんの話、被爆柳、6年生みんなによる峠三吉の詩碑の群読、そして『白い鳩』を歌う。

② 6月10日（火）の「さくらグループ」（1～6年の縦割り小集団）の集まりで

6年生一人ひとりがそれぞれのグループの1～5年生に、旅行で印象に残ったこと、被爆された方の話とその感想を話した。グループのなかまからは被爆された方への感想を手紙という形で集める。その中のいくつかの感想を記す。

ならばへいわですね。すごいかぜでまがることがすごいですね。（1年女子）

ぼくはげんばくがどんなにおそろしいことか知りませんでした。し体が川をうめつくすくらい死んだ人がいたなんてしんじられませんでした。もう日本にせんそうのないへいわな日本になってほしいです。とにかく死んだ人をかえしてほしい。（3年男子）

私は、お母さんは仕事をしていて、ばくふうをうけて、2～3分いきができなくなり、外に出たら、やけどをした人がたくさんいてびっくりしたし、悲しかったと思う。そして、そのせいで20万人以上の方が死んで、その中に知っている人がいたらとっても悲しんだと思う。私だったらとても悲しむと思う。そして、人間が戦争をしているから、これからは戦争をしないでほしい。そして、あらためて戦争はだめだと思った。（5年女子）

③ 7月8日（火）の全校集会で

全校から集まった中西さんと岡さんの手紙をそれぞれ一冊に綴じ、6年生もその集めた手紙に感想を付け足した。それらの手紙の一部を全校集会で報告し、6年生の児童委員が手紙を添えて二人のもとへ送ることにした。

5、取り組みの意義

中西さんも岡さんも 80 才を超えられている。あと何回お話を聞けるかわからないが、被爆されたば場所での話は臨場感があり、69 年前ということのを忘れるような実感がある。お二人とも、二度と戦争を繰り返してはいけないということと、少しでも多くの人に話してほしいと言われる。このことが 6 年生をヒロシマの語り部に育てる大きな力になっている。

学年団の取り組みから全校へと広げていくことを通して、やがて自分もヒロシマを学ぶことになる下の学年の子どもたちにとってのスムーズな学びにつながっていく。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）